

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年7月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100708
法人名	医療法人 秀愛会
事業所名	グループホーム 清滝
所在地	鹿児島県鹿児島市西千石町13番30号 (電話) 099-213-9950
自己評価作成日	令和5年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●尊厳を持ってその人らしい暮らしができるようにお手伝いします
●ゆったりと暮らせる環境を一緒に作っていきます
●地域の一員としての橋渡しを行います

を理念に掲げ、ご利用者様、ご家族様との関係性を大切にしている。行事も現在は状況により、難しい面もあるがご家族参加型の行事に取り組み、家族会を開催してご利用者の日々の暮らしを知って頂いたり、ご要望や相談しやすい環境作りにとりくんでいる。また鹿児島市の中心に位置し交通の便にも恵まれているため、おはら祭やハンヤ、地域小学校での行事など外出しやすい環境である。行事なども事業所(通所介護事業所やサービス付高齢者専用賃貸住宅)と合同での行事やレクレーションなどの交流を行っている。また沖野循環器科病院が併設であり、定期の受診や緊急時にも対応ができ安心して生活が出来るように支援している。外部研修に参加したり、内部研修にも定期的開催し年間計画をたててケアの質向上に向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体法人が医療機関で、定期的な受診や緊急時の対応・24時間医療連携体制・週1回の訪問看護等が整っており、利用者・家族の安心につながっている。
- ・町内会に加入しているがコロナ禍で交流を自粛し、地域の業者から食材の購入をしたり、町内会長より地域の情報を得ている。
- ・管理者は職員の意見をよく聞いている。職員同士も仲が良く長期で働いている職員もいる。資格取得希望者への応援体制もできている。
- ・食事は専属の職員がいて行事食や誕生日のケーキ・おやつも楽しみになっている。利用者は、野菜の下ごしらえや後片付け等や季節の保存食を職員と一緒に作ったりして、食事が楽しめるような支援を行っている。
- ・外出支援は、毎年初詣に出かけている。コロナが第5類になったので様子を見ながら花見にも出かけ、屋上の藤の花を見ながらお茶飲みも行う計画である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し、入職時に地域密着型サービス、特に「グループホーム」としての事業所理念の共有を行っている。特性を生かした理念に基づき、支援を行い、実践に繋げている。	理念は、各ユニットの玄関に掲示しパンフレットにも記載している。新人職員の入職時には研修を行っている。全職員で年1回研修も実施している。日々のケアの中で理念に沿ったケアができていくか話し合いを行い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域の一員として」の交流であるが、現状実施が難しいと感じている。コロナ禍の状況を踏まえ、また町内会にも入っていることを生かし、交流の場を増やしていきたい。現状では、食品の仕入れ等、地域との付き合いを行っており、利用者様へも食事の際など認識していただいている。	町内会に加入しているがコロナ禍で交流を自粛している。近隣の公園の散歩時の挨拶や食材の仕入れ時に話をしたり町内会長とも地域の情報を得ている。今後は保育園・幼稚園・小学生・ボランティアの受け入れを行っていく予定である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の人々への理解や支援方法として、2ヶ月に1回の運営推進会議での報告を行っている。民生委員や包括支援センターなど、在宅の方と密に接する機会のある方の為、今後も一体となった認知症の方への支援を行って行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況においては対面での実施が難しく、電話報告、タブレットを使用している状況報告を行ってきた。令和5年度より、対面で行うようになってきた為、今後はより密になって現場を見て頂いたり、相談、支援の実施を行えたらと感じる。	コロナ禍の為、会議は2ヶ月毎に事業所内のみで開催し、委員へは書面を郵送している。今後は対面で開催予定である。アクリル板を使用している面会や他事業所との交流をとる意見があり、意見はサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者へ、定期的な実績報告、アンケート等以外にも疑問点や相談を担当者間にて連携を行い、協力関係を積極的に行うように努めている。今後も法改正等、現場側が円滑に運営できるように努めていきたい。	介護保険の申請や法の改正・事故報告等で窓口に出向いた時などに相談事をしている。通常は電話で話をすることが多い。市主催の研修等はオンラインで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所一体となり、身体拘束、虐待防止委員会を立ち上げ、会議、報告、その後の職員への周知共有認識の徹底を行っている。また事業所内においては勉強会（研修）を年に2回行い、勉強会内でも簡易テストを行うなど認識としても「身体拘束をしないケア」に努める。また日頃から声掛けや共有を行う。	身体拘束・虐待防止委員会があり3ヶ月に1回法人内で研修を実施している。事業所でも勉強会を行い、言葉かけに注意しながらのケアに取り組んでいる。入口は日中は施錠しておらず見守りと声掛けを行っている。外出希望者はベランダへ出て外気浴をしたり、散歩等で気分転換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を事業所、法人にて立ち上げ、3か月に1回委員会の実施を行っている。また他部署の急な確認も行い、共通認識を行っている。また、事業所内においては、研修、入職の際に新人研修を行い、防止に努めている。また通常業務においても適切な言葉遣いか、ケアかななどを声掛けや注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について、研修や学ぶ機会を持っており、今後も継続して活用できるようにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約においては、契約締結時だけでなく、事前に本人、ご家族と密に連携をとり、利用料金・運営・内容への理解等へ納得頂き、契約を行っている。契約時、契約後も相談窓口を置き、また事業所だけでなく、関係機関（行政や専門機関）の案内も契約書へ記載し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本人、家族等の意見が反映できるように、事業所内だけでなく、外においても案内の記載を行い、相談において早く円滑に解決できるように努めている。また、事業所外への案内を行った際も問題解説ができたかのアフターフォローや確認を行うよう努めている。	利用者からは日頃の会話の中で意見を聞いている。家族の意見は面会時や電話で聞いている。コロナ禍で家族会もできなかったが今後再開する予定である。ホームだよりも季刊で発行し、家族にも喜ばれている。意見箱を設置している。食品の持ち込みの希望があったり状況に応じて対応を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、職員の意見や要望等、述べやすい環境作り（声掛け、必要時の聞き取り）を行い、早い問題解決できるように努めている。方法として定期的な面談も行っている。	毎月の職員会議での意見や年1回個別の面談を実施し、思いを聞いている。食器を長く使用しているため新しい物に変えたほうがいいのでは等の提案があり検討している。出された意見は話し合いを行いながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績を把握に努め各自が向上心をもって働けるよう努めている。今後も職員がやりがいを持って働きやすい環境作り、個々の実績や努力に応じて給与への反映にできるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への取り組みとして、県、市の研修案内の周知、研修費の支援、時間内での研修できるような勤務体制を取り組んでいる。事業所側からの声掛けも行っているが、職員自身の意欲や自己研鑽に繋がる事を期待したい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の状況において同業者同士での交流や情報交換に難を感じる事が多かった。グループホーム協会への入会や事業所間での交流や情報共有がサービスの質の向上へ繋がると考えており、活動の幅を広げる必要があると感じている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたり、特に初期の段階においては、本人の環境変化、心理的な変化、周りを取りまく環境が特段変化し、心身共に影響する事を踏まえ、特に気を付け事業所内だけでなく、ご家族様や主治医や関係部署とも連携をもち関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に気付くご家族との関係について、ハード面の説明だけでなく、ソフト面における支援や関係、信頼作りに努めている。また本人の支援内容についても事前にしっかりと説明を行い、要望等に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始にあたり、本人、ご家族のニーズの見極めを行い時として柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居される「本人主体」を一番に職員が、本人様とどのように関係性を築くか、観察や見極めを行いながら今後も支援を行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がどのような経緯や想いで本人の入所に至ったかの想いやニーズに沿いながら、入所後の関係性も継続支援できるように定期的な報告だけでなく、面会時でのお声掛けや傾聴を行うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の入所前の情報収集をしっかりと行い、入所後からの支援だけでなく、自宅での生活や環境をすこしでも継続し関係が途切れないような支援に努める。	コロナ禍でも面会はアクリル板の使用やズームで実施している。訪問美容師を定期的に依頼している。家族との話し合いで、今後友人の訪問や定期的な外出も計画している。訪問マッサージの受け入れをしている。電話や手紙のやり取りも行って、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の尊厳やプライバシーは大切にしながら、共有スペースの活用、また孤立しないようにお互いの距離をはかりつつ、時として職員が仲介に入りながら、関係性作りに努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のご家族よりご連絡を頂いたり、施設に顔を出してくださる事もあり、また後家族の紹介で入所していただいた方もいらっしゃる。関係性を大切にしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の想いを尊重しながら、意向の把握を行っている。また、日頃のコミュニケーションの際も「変化」を見逃さないように職員間でも共有を行いながら支援に努める。ご家族の情報もとても大切なため情報共有を行う。	利用者の思いや意向を入浴時や夜間帯・家族等に聞くことがある。希望を活かせるように職員と話し合いをしながら支援している。困難な場合は家族からも情報を得ながら本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の入所に至るまでや、お勤めしていた仕事等の生活歴にも重点を置き、入所後の生活が単独してあるのではなく、本人の本来の性格にも尊厳を置き情報収集を行い、今後も支援に努める。また家族や本人とのコミュニケーションやカンファレンスシート等で把握できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人と合った、その人らしい生活が行えるよう努め、職員間でも日々の申し送り等にて情報共有しながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画において、統一した支援内容ではなく、その方の情報をチームで共有しながら、長期的に多面性を持ち、最終的には本人のニーズに即した支援内容を目指している。支援内容もその都度見直し、常に変化するものである事を念頭に置きながら、支援内容に関してもチームで職員の有するそれぞれの適した面も生かしながらケアに努める。	利用者・家族・職員・主治医等の関係者に意見を聞きながら介護計画を作成している。介護計画・モニタリングは6ヶ月で見直しを行い、退院後等の状況変化や個々の状態変化に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成するにあたり、職員間でも申し送りを行い、細かな内容も記録に残しながら、情報共有を行っている。また、必要時、カンファレンスを行い、計画の見直しを行いながら実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が日々変化があるように、固定概念にとらわれず、「その時」に「何を」必要としているか、職員でも共有を行いながら支援に努める。また本人の表情や仕草にも着目しながら、必要時はご家族の協力も頂きながら支援に努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の状況も緩和され、関りも変化していくなかで、本人の希望に沿って地域資源を活用できるよう努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人でのかかりつけ医が主体となっているが、入所前においても本人、ご家族の意向を踏まえながらかかりつけ医の支援を行っている。必要時は専門科の受診に加え、継続支援という面において訪問診療ができる体制も視野に入れ、適切な医療が受けられるように支援している。	本人・家族と話し合い、協力医療機関がかかりつけ医となり入所時に契約をしている。定期的に職員が受診に付き添っている。他科受診は家族が行っている。歯科受診は往診に来てもらっている。24時間医療連携体制で、週1回訪問看護もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>当事業所では同法人にて医療機関はあるため、職場内の看護や週に1回の訪問看護、また日頃からも相談、状態報告ができやすい環境である。また24時間、365日体制で医療体制の協力があるため、ご家族からも安心のお声を頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本院が入院した場合、退院援助や長期化するが場合の今後の方針も各専門部署や相談員と連携を持ちながら、円滑な支援に向けた情報収集、ご家族や主治医との連携を行っている。また状態が変化して退院する場合も受け入れ側の体制確保や必要時の移室も行いながら支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り支援においては、契約時ではあるが、「看取り」は単独して存在するものではない為、本人、ご家族の意向を確認、情報を取りながら、またその時に慌てないようにご家族間でも意思確認を行って頂くようお願い掛けしている。また実際、看取り期が開始した時も、意向確認を行いながら、支援を行っている。痛みの緩和や食べ物に関しても好きだったもの例えば、プリンやケーキなどお持ちこみ頂き、食べて頂いたりもした。</p>	<p>本人・家族に利用開始時に重度化や終末期の説明を行って同意書をもらっている。マニュアルがあり全職員で確認を行っている。状態変化に応じてその都度主治医からも話をしている。関係者と共に支援に取り組み、看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時に備え、また日頃からもマニュアルを常備し、随時確認を行うようにしている。また令和6年度から義務化されるBCPの継続事業計画も視野に入れ、感染等、物品も確認を行いながら、実践力を身に付けて行くよう今後も努める。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>1年に2回、防災訓練の実施（夜勤帯、日勤帯）と、1年に1回の洪水避難訓練を行っている。当事業所は医療機関も法人管轄であるため、各事業所一体となって、災害対策、訓練を行っている。また非常食に関しては2～3日を予定している。災害におけるBCPも作成予定である。</p>	<p>法人全体で年2回消防署の協力を得て昼夜間想定で避難訓練を実施している。利用者の移動に関しては法人職員の協力体制ができています。今後地域への声掛けも行っていく予定である。運営推進会議でも話をしている。備蓄は、米・水・缶詰・レトルト食品等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人権を尊厳しながら、言葉かけや声のトーンにも気を付けながら支援を行っている。	マニュアルを基に年1回研修会を実施している。入室時のノック、トイレ誘導や申し送り時には部屋番号で報告し声のトーンにも配慮している。言葉かけは表情や態度に合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援内容として、選んで頂き、想いを優先して自己決定をして頂いている。択一が困難な利用者様に関しては選択を狭め、自己決定ができるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース大切にし、心身に支障の無いよう協力しながら希望に添えるよう支援している。ケアに関しても柔軟に対応できるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好きな色や好みに寄り添い、入浴後の着替えの支援等を行っている。個々の個性もあり、尊厳している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできる範囲で野菜切りを行っている。調理は、見た目色合いに気をつけ、盛り付けにも気を付けている。当事業所は対面キッチンになっており、食事作りの風景や音、においもわかる為、そこも踏まえ、嗅覚、味覚、視覚も大切にしながら声掛け支援を行っている。	調理専属の職員がいる。対面式キッチンで食事作りの様子が見え生活感がある。野菜を切ったりお盆拭きや台拭き等を職員と一緒にやっている。食事の形態は刻みやミキサー食もあり、食べる前にメニュー紹介をして食事介助を行っている。行事食・誕生日のケーキやおやつ・餃子・あく巻・保存食のらっきよ等を一緒に作ったりして食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた支援や取り組み（分量や塩分内容）を行っている。また野菜中心の食材を使い、繊維、排便コントロールに着目した支援を行っている。水分量も疾病等により、制限のある方もいらっしゃる為、各利用者様1日のトータルを把握し確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医（歯科）にて緊急時だけでなく、日頃の支援（定期清掃）もしていただいている。また嚥下状態についても相談を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	内服薬にて排便困難な方に関しては下剤を服用されている方もいらっしゃるが、自立支援やトイレでの排泄を目標とし、そうする事で、尿意は便意の感覚を取り戻し、皮膚を清潔に保つ事もできる為、努めている。今回病院に入院されていた方が、立位保持も可能なため、トイレでの排泄を開始し、下肢筋力維持、皮膚の清潔保持の観点からも試みて見た。そうする事で現在は尿意、便意の感覚が取り戻せるようになり、パット内へ排尿が無い事例もあった。	排泄チェック表を基に個々人の排泄パターンを把握している。日中トイレに誘導して便座に座っての排泄を促している。退院後立位ができる利用者にはトイレでの排泄支援で下肢筋力の維持ができ尿意便意の感覚が戻りトイレでの排泄が出来るようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間でも相談・工夫を行いながら、取り組みをおこなっている。また下剤副作用も確認しながら、牛乳を飲んで頂いたり、排便困難な方は腹部マッサージを行ったり努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間帯は決めているが、個々の体調に合わせてながら入浴支援を行っている。また入られる際も温度や室温に気を付け、湯船につかれぬ方に関しては足浴を行いながら、心地よい空間作りができるように支援を行っている。	週2回午前中を基本としているが状態や状況に応じて対応している。2人介助で行うこともある。シャワー浴の時には足浴も合わせて行ったり入浴が楽しめるように支援を行っている。嫌がる場合はタイミングをみたり職員が変わって声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に合わせて、空調や室内等の調整を行いながら気持ちよく寝れる様支援している。就寝時間も本人希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報を管理し、また服薬による副作用も把握しながら服薬支援を行っている。また、薬局の薬剤師にも相談できる環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の役割においては、個人個人の出来ることや以前されていた仕事等にも着目しながら、支援を行っている。「私の仕事」と日課としてして下さる方もおり、「仕事を持たせてくれてありがとう」との言葉も聞かれている。食事の後の台拭き、お盆拭き、洗濯物たたみ、調理のお手伝いなど。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の時は、制限下の元、中々思うように外出支援が出来なかったが、現在5類への移行をきっかけに法事への参加、今後戸外への外出参加をご家族と協力しながらでかけられるように支援していきたい。また、施設での外出支援も積極的に行っていきたい。	コロナ禍で思うように外出出来なかったが初詣には出かけた。第5類になったので甲突川の桜を見物した。家族の協力をもらいながらそうめん流しやコスモス見物も予定している。家族との外出も今後様子を見ながら取り組んでいく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の所持は難しい所もあるが、希望に応じ、支援できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話やタブレットを所持される方もおり、本人がかきたい時につけ、家族や周りの方と関係性が途絶えないような取り組み、また携帯電話等使用方法が分からない方に関しては職員が仲介に入り、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行い、必要時模様替えをすることによって居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは明るく、空気清浄機やエアコン等で空調管理を行っている。カーテンを使って遮光調整もし、換気にも配慮している。台所は対面式で料理を作っている様子が見られて家庭的である。季節の花や飾りつけを行い、利用者の写真や作品等も掲示し居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様ごとに居室内はプライベートな環境を作られており、フロアでは利用者同士で交流できる場も提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が長年使っていたものを持ち込むなどして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド・床頭台・エアコンは事業所が準備している。仏壇・箆笥・家族の写真・テレビ・椅子・ハンガーラック等、本人が使っていた馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考慮した居室配置を行っており、全体を見守りながら、その中でできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない